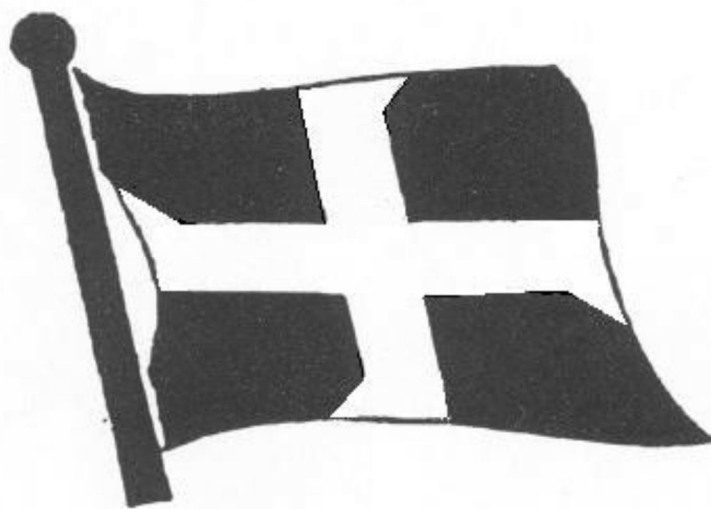


蒼穹NEWS

No.5

七大戦総括号

令和元(2019)年 8 月 10 日発行



～目次～

1. 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
2. 七大戦結果
3. 七大戦詳細
4. 七大戦記録
5. 七大戦 OB 様名簿
6. 近国結果
7. 新幹部のおしらせ

1. 主将・女子主将・監督挨拶

主将挨拶

8月3日、4日の二日間にわたり、博多の森にて七大戦が行われました。男女総合優勝の目標に対し、男子は135点で優勝、女子は5点で6位という結果に終わりました。

男子は1日目のオープン種目からいい流れを生んでおり、ハンマー投、三段跳等で着実に点を稼ぎました。その流れを引き継ぎつつ、2日目は午前から複数人の決勝進出、ランキングを返した得点、などが続き、競ると予想されていた阪大東大が点を取りこぼしていく中で、事前ランキング以上の点数を重ねていきました。点差が開いてからも決して気を緩めることなくランキングを返しに行くパフォーマンスを見せ、選手・応援サポートが一致団結した結果、全種目で得点、そしてここ50年ではどの大学も取ったことのない、135点という点数を獲得することができました。

やはりチームの力というものには偉大だと、私自身つくづく思われます。もし、普段私たちがチームとして練習を行っておらず、個々人の集まりとして、同じメンバーでこの七大戦を戦いに行ったとしても、ここまでの点数は取れなかったに違いありません。究極に言えばリレー以外は個人競技である陸上競技を、なぜわざわざチームを作って取り組むのか。その答えが、ここにあるかと思います。

次なる戦いは、近国、同志社戦を経て、東大戦となります。私たちの目標は、男女総合優勝です。今年度、男子は目標を達成すれども、男女ともに目標を達成できた試合はありません。男子は優勢が予想されますが、短短などを中心に相手も力をつけており、そこまでの大差は無く予断を許さない状況で、また女子はかなりの接戦となる模様です。この東大戦では、なんとしても、男女総合優勝の悲願を達成すべく、七大戦の結果に引きずられすぎずに、この夏また更なる努力を重ね、男女ともにさらに一回り強くなったこのチームで東大戦に臨む所存です。

蒼穹会の皆様におかれましては、この七大戦、博多という遠方の地で猛暑の中多数の方に応援に駆けつけていただきました。心より感謝を申し上げますとともに、東大戦に向けて、今後とも変わらぬご支援、ご声援のほどを、よろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 三神 惇志

女子主将挨拶

8月3,4日に七大戦が博多で行われました。女子は5点で総合6位と目標としていた男女総合優勝はできませんでした。去年の七大戦から1年間女子チームの全体の底上げを意識してやってきましたが、1年間で全体的に力がついてきたものの、圧倒的な実力を持った選手がいる東北大学や層の厚い大阪大学などと力の差を実感しました。多種目出場であったり応援やサポートなど人数が少ない中で大変ではありましたが、チーム一丸となって七大戦にのぞめたと思います。この悔しさを忘れることなく、次にのぞむ東大戦では、女子は接戦が予想されますが、何としても男女優勝を達成したいと思います。また、女子はチーム作りの方も見直していく必要があると思います。新入部員を多く獲得できるようそちらの方も見直していく所存です。蒼穹会の皆様、お暑い中、ご多忙の中多大なるご支援、ご声援をいただき本当にありがとうございました。結果を残すことが出来ず申し訳ございません。どうか今後とも変わらぬご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 後藤 加奈

監督挨拶

去る8月3日、4日に博多で行われた七大戦は、男子総合優勝、女子総合6位という結果となりました。

男子は、優勢であった事前ランキングを更に覆し、135点という過去最高水準の得点で圧勝しました。特に、全種目で得点することができ、チームとしての層の厚さを見せつけてくれました。これは、1年間幹部を中心にチーム作りに努めた4回生の尽力の賜物です。また、去年の七大戦で悔しさを味わった選手たちが1年間で力をつけてリベンジを果たした試合でもありました。来年は他の6大学の挑戦を受ける立場になりますので、この勝利に甘んじることなく連覇を果たしたいと思います。

女子は、事前ランキングから取りこぼしもあり6位という結果に終わりました。僅差の勝負に敗れた場面も多く、勝負弱さが浮き彫りになりました。しかし、自己ベストも数多く出ており、着実に実力をつけてきています。3回生以下の活躍も目立ちましたので、来年に期待したいと思います。

次は東大戦です。近国、同志社戦の連戦を通してより一層チームとして成熟し、なんとしても男女総合優勝を果たしたいと思います。

蒼穹会の皆様には、暑い中遠方にも関わらず多くの方々に来ていただき誠にありがとうございました。今回の男子の総合優勝は、蒼穹会の皆様のご支援、ご声援なくては成し遂

げられるものではありませんでした。東大戦こそは男女総合優勝を果たしたいと思いますので、より一層のご支援、ご声援をよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 五十嵐 隆皓

2. 七大学戦結果

第70回全国七大学対校陸上競技大会 第30回全国七大学対校女子陸上競技大会

令和元年8月3日(土)4日(日)

東平尾公園博多の森陸上競技場

男子総合成績

第1位	京都大学	135点
第2位	大阪大学	83点
第3位	東京大学	59点
第4位	東北大学	43点
第5位	名古屋大学	42点
第6位	北海道大学	37点
第7位	九州大学	21点

男子トラックの部

第1位	京都大学	84点
第2位	大阪大学	49点
第3位	東京大学	38点

男子フィールドの部

第1位	京都大学	51点
第2位	大阪大学	34点
第3位	北海道大学	23点

女子総合成績

第1位	東北大学	24点*
第2位	大阪大学	24点*
第3位	名古屋大学	13点

第 4 位	北海道大学	12 点
第 5 位	東京大学	7 点
第 6 位	京都大学	5 点
第 7 位	九州大学	1 点

*優勝種目数により順位を決定

女子トラックの部

第 1 位	東北大学	20 点
第 2 位	大阪大学	19 点
第 3 位	名古屋大学	6 点

女子フィールドの部

第 1 位	北海道大学	9 点
第 2 位	名古屋大学	7 点
第 3 位	大阪大学	5 点



3. 七大戦詳細

・1日目(8月3日(土))

男子三段跳決勝

- 1位 三神 惇志(京大4) 15m08(+1.6)
自己新タイ
- 2位 高橋 毅(九大3) 14m57(+1.2)
- 3位 渡辺 啓暉(北大2) 14m30(+1.6)
- 5位 岩井 響平(京大2) 14m16(+1.4)
自己新
- 14位 柳原 拓海(京大2) 13m25(+2.3)

男子三段跳決勝には、三神(4)、岩井(2)、柳原(2)が出場した。三神は1、2本目がファールであったが3本目で自己ベストタイとなる15m08を跳び、4本目以降も15mを越えるジャンプを見せて優勝した。岩井は1本目から自己ベストを大きく上回る14m04を跳び、3本目も14m16と記録を伸ばして5位に入賞した。柳原は3本とも踏切位置が合わず、自己ベストには届かない結果となった(坂本璃)。



↑ チームを沸かせる活躍岩井(2)

男子ハンマー投決勝

- 1位 三谷 圭(京大4) 47m88 自己新
- 2位 大橋 悟(京大4) 45m84
- 3位 立花 悠馬(名大2) 43m45
- 4位 藤田 歩(京大3) 42m70 自己新

男子ハンマー投には三谷(4)大橋(4)藤田(3)が出場した。三谷は目標の蒼穹記録には届かなかったものの6投すべて45m越えと安定感を見せてPBを更新しての優勝となった。大橋は専門とはしていない種目でありながらも持ち前の投擲センスを見せつけ45mを越え2位となった。藤田は序盤緊張からか動きが固くファールが目立ったものの、きちんと修正して4投目にPBを更新し一時は3位となる投擲を見せた。その後6投目に逆転され4位となった。結果としてスコルクはならなかったものの全員がランキングを守り14点を獲得しチームに勢いを与えた(眞鍋)。

↓14点獲得の男子ハンマー藤田歩(3)



男子走高跳決勝

- 1位 木村 友哉(阪大3) 2m07
- 2位 羽田 充宏(阪大3) 2m04
- 3位 北嶋 諒太郎(九大4) 2m04

6 位 阪口 裕飛(京大 2) 1m98

男子走高跳決勝には阪口(2)が出場した。開始高さは1m98。少し攻めたようにも見えたが、安定感のある跳躍で1本目で成功。この時点に残る選手は阪口含め6人となり、得点が確定した。続く2m01はパス。しかし次の2m04で3本失敗し、最終的な記録は1m98で6位となった。優勝を目標としていた本人にとってもかなり予想外の展開となったが、それでも確実に点数を獲得できる強さを見せた(小西)。

男子 200m 予選

加藤 寿昂(京大 3) 21.77(+1.6)

自己新 Q

田中 大智(京大 2) 21.92(+2.2) q

藤田 雄大(京大 3) 22.11(+1.3) 自己新

男子 200m 予選には加藤(3) 田中大(2) 藤田雄(2)が出場した。1組の加藤は前半からスムーズに加速し、直線に入るところで2位になると、ラスト 50m 付近から周りの様子を見つつ流し始め2位でゴールし、着順で決勝進出を決めた。2組の田中大はスタートで少し出遅れ直線に入るときには4位だったものの、最後まで粘りゴール直前に前の選手を抜かして3位でゴールし、プラスで決勝に進出した。3組の藤田雄は前半うまく加速していき直線に入ってから前との差を詰めていったが、3位の選手に追いつけず組4位という結果になった(野田)。

女子 400m 予選

後藤 加奈(京大 4) 1:03.03 Q

女子 400m 予選には後藤(4)が出場した。資格記録では組で2位につけていて、決勝で良いレーンを貰うために、2位を守るレースだった。スタートから1つ外レーンの北大・大坂と第1コーナーでは同じスピードで走り、バックストレート中央付近で追い付くと、そこからは北大・大坂に体1つ分のリードを保ちながらそのままゴールした。2着でも決勝に向けてできる限り温存しようという意図が見えるレースとなった。予選で温存できたため、決勝では自己新、目標である表彰台を期待できそうなレースだった(室)。

・2日目(8月4日(日))

男子 5000mW 決勝

1 位 後藤 潤平(東大 4) 21:34.76

2 位 亀田 孝太郎(京大 4) 21:35.28

3 位 鈴木 智大(名大 2) 21:48.86

7 位 馬淵 丈(京大 2) 22:55.46

9 位 池田 尚平(京大 1) 23:56.77

大学新

男子 5000m 競歩決勝には亀田(4)、馬淵(2)、池田(1)が出場した。亀田は序盤から先頭集団につき、途中先頭を引っ張るなど積極的なレースをした。後半まで先頭でレースを展開し、3位でゴールしたが、相手選手の失格により繰り上げで2位となった。最終学年としての意地を見せ、ランキングでは得点圏外から大逆転の結果を出し、チームに大きな勢いをもたらした。

た。馬淵は、前半は第2集団に付き余裕を持って入り、後半ペースを上げて、7位となった。惜しくも得点とはならなかったが、来年以降の活躍を期待させる結果となった。池田に関しては、得点とはならなかったものの、落ち着いたレース展開をみせ、CBを更新、来年以降の京大競歩の躍進を期待させる結果であった（木野村）。



↑京大に流れを引き寄せた亀田(4)

女子走高跳決勝

- 1位 中村 友香(名大1) 1m59
- 2位 山崎 真奈(阪大4) 1m56
- 3位 福田 早紀(阪大3) 1m56
- 6位 小西 菜月(京大1) 1m50

自己新タイ

女子走高跳には1回生ながら小西(1)が出場した。1m40、1m45を1回目で跳び、幸先の良いスタートを切った。1m50には2回失敗し、1m50に挑んでいた他大学の選手は全員成功とプレッシャーのかかる場面だったが、見事に3回目で成功した。1m53は惜しくも3回失敗し、6位で競技を終えた。今年の4位の記録は1m53であ

り、来年の得点や表彰台が期待される(川井景)。

男子走幅跳決勝

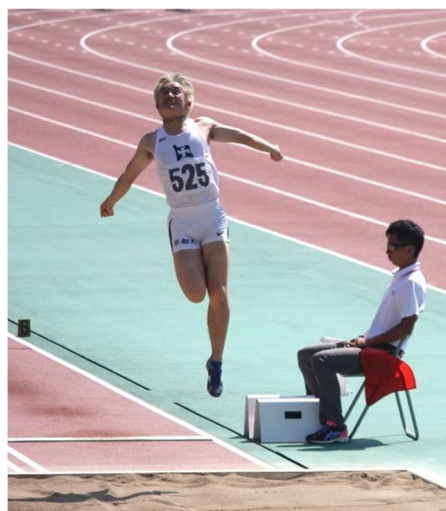
- 1位 木下 将一(阪大3) 7m26(-0.1)
- 2位 三宅 功朔(東大4) 7m25(+1.3)
- 3位 井内 光(阪大3) 7m23(-1.3)
- 5位 本居 和弘(京大4) 7m02(+0.3)

自己新

- 10位 仲村 快太(京大2) 6m59(-0.8)

村田 憧哉(京大2) NM

男子走幅跳決勝には、本居(4)、仲村(2)、村田(2)が出場した。本居は1、2本目がファールとなったものの、3本目で自己ベストである7m02を跳び、3本目終了時点で3位となった。しかし4本目以降は記録を伸ばせず5位入賞となった。仲村は久しぶりの試合ということもあり、調子が上がらずベスト8に残ることはできなかった。村田は踏切が合わずNMという悔しい結果に終わった(坂本璃)。



↑追い詰められた中での7m02本居(4)

女子 100m 予選

後藤 加奈(京大 4) 13.05(-0.2) q

花房 柚衣香(京大 3) 13.86(-0.4)

女子 100m 予選には後藤(4)と花房(3)が出場した。1 組目に登場した花房はスタートで良い反応を見せるもうまく加速することが出来ず、後半に追い上げを見せるが組 7 着でのフィニッシュとなった。2 組目に登場した後藤は前半出遅れるも隣レーンの九大の選手を冷静に抜き去り、PB に迫る記録を叩き出し組 4 着で決勝に進出した(高橋惇)。

男子 100m 予選

加藤 寿昂(京大 3) 10.77(+0.1) Q

田中 大智(京大 2) 10.93(+0.3) q

森本 健太(京大 2) 11.05(-1.8)

男子 100m 予選には、田中(2)、加藤(3)、森本(2)が出場した。田中はスタートがうまく決まり、そのまま中盤、後半にうまくつなぎ 3 着でゴールしプラスで決勝進出。加藤はスタート 40m 付近で抜け出し、最後は流して 1 着でゴールし決勝進出。森本はスタートをうまく決めることができず、そのままの中盤、後半へ進み、強い向かい風の中タイムこそ悪くなかったが 5 着でゴールし予選敗退となった(吉田)。

女子やり投決勝

1 位 中野 水貴(京大 3) 42m99 NGR

2 位 湯谷 美紀(名大 2) 36m89 NGR

5 位 小西 菜月(京大 1) 29m72

自己新

女子やり投には小西(1)と中野(3)が出場した。小西は走高跳の直後でありながらも、PB を更新するなど良い投擲を見せてくれた。結果は 5 位と、目標にしていた 2 位には届かなかったが、今後のさらなる成長に期待したい。大会新を狙う中野は、一投目から 40m をこえる投擲を見せ他の選手を引き離れた。その後も少しずつ記録を伸ばし、2 位とは大差をつけての大会新記録での優勝となった。しかし自身の PB には 3m 弱及ばない記録であり、今後女子主将を務める立場であるからこそ、さらなる記録の向上に期待がかかる(松原)。

男子砲丸投決勝

1 位 中村 優太(東大 3) 13m61

2 位 眞鍋 聡志(京大 1) 12m48

自己新

3 位 大野 誠尚(東北 2) 12m43

9 位 松井 そら(京大 4) 10m82

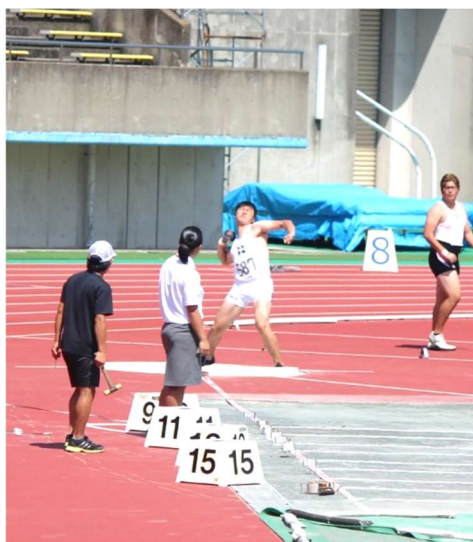
自己新

12 位 三谷 圭(京大 4) 9m93 自己新

男子砲丸投げには松井(4)、三谷(4)、眞鍋(1)の 3 人が出場した。松井は練習投擲から好投を見せており、一投目から自己ベストを更新する 10m82 を記録したものの、その後記録が伸びず、9 位で惜しくもトップエイトを逃した。三谷は 2 投目まで持ち前のパワーを生かせず、9m 弱にとどまっていたが、3 投目で自己ベストを更新

する 9m93 をマークし、12 位で競技を終えた。眞鍋は一投目はファールだったが、2 投目で 12m48 の大投擲を見せ、東大の中村に次いで 2 位につけた。その後、記録は伸びなかったものの、一回生ながら 2 位に入り 5 点をもたらした。13m 超を複数回マークしていた中村との差はまだ大きい
が、今後地力をつけていき、来年は優勝を狙う(山田)。

↓ 1 回生ながら 2 位入賞眞鍋(1)



男子 400m 予選

浅井 良(京大 3) 49.16 Q

小原 幹太(京大 4) 49.41 Q

小谷 哲(京大 4) 49.51 Q

男子 400m 予選には小原(4)、小谷(4)、浅井(3)が出場した。1 組に出場した浅井は、1 つ外レーンの阪大・寺前を第 1 コーナーを抜けたところで追い抜くと、どんどん他選手との差を広げ、ホームストレートに差し掛かった所では、後続と 15m 程の差をつけていて、組 1 着を確信した上で流してゴールした。2 組に出場した小谷は、

1 つ外レーンの名大・山原を第 2 コーナーで追い抜き、250m 走り終えたところで 2 つ外レーンの東大・伊藤を追い抜いた所で、内レーンにいる組 2 位の資格記録を持つ阪大・長の位置を確認する余裕を持ちながら組 1 着でゴールした。3 組に出場した小原は 5 レーンから出走し、3~6 レーンの 4 選手がスタート時の距離感を保ちながらバックストレートを通り、ホームストレートに差し掛かった所で 4 選手は横並びだった。そこから阪大・志賀が飛び出し、それを追うような形で小原は組 2 着でゴールした。3 選手とも余裕を持った走りをしたため、決勝では好記録が期待できるようなレース運びだった(室)。

男子 1500m 決勝

1 位 木村 佑(京大 3) 3:57.20

2 位 金綱 航平(北大 4) 3:58.04

3 位 清原 陸(京大 3) 3:58.11

8 位 前田 裕也(京大 3) 4:00.80

自己新

男子 1500m 決勝には、木村(3)清原(3)前田(3)が出場した。優勝候補の一角である北海道大学の高橋の欠場のため、ランキング上位である木村、清原の優勝が期待された。先頭集団の 400m、800m の通過はともに 64 秒前後と大きな動きはなく、清原、木村は先頭集団の先方に前田は先頭集団後方 8 番手付近に着けた。ラスト 1 周を迎え、多数の選手がスパートをかける中、木村、清原もスパートをかけ、抜けだした。前田は前に食らいついて走った。木村はそのまま抜け出し 1 着。清原は最後の

30m で 1 人にかわされ、3 着。前田は粘りの走りを見せ、大幅な PB 更新で 8 着。来年度の七大戦においても期待をもてるレース結果であった(松岡)。

男子 400mH 予選

長谷川 隼(京大 3) 55.41 Q

酒井 良佑(京大 2) 55.41 Q 自己新

平野 亘(京大 3) 56.12

男子 400mH 予選には、長谷川(3)、平野(3)、酒井(2)が出場した。資格記録を見れば、長谷川、平野は決勝進出の見込める、酒井は PB 更新が必要であるレースだった。レースの展開は長谷川は余裕のある走りを見せ、酒井は PB を更新して決勝へと進んだが、平野は序盤から力んでいる様子が見え、後半は粘り強く走ったものの、決勝進出をのがした(田中宏)。

女子 3000m 決勝

1 位 三池 瑠衣(阪大 4) 10:13.15

2 位 上條 麻奈(東北 4) 10:37.20

3 位 斉藤 栞(名大 3) 10:37.55

5 位 藤本 のどか(京大 1) 11:12.00

大学初

6 位 藤本 涼(京大 2) 11:17.87

女子 3000m 決勝には藤本涼(2)と藤本のどか(1)が出場した。スタート直後から阪大の選手が飛び出し、その後ろは 400 通過が 86 秒のスローペース。藤本涼は 2 位集団、藤本のどかは 5 位集団につけた。藤本涼は 1000m を 3 分 33 秒という良いペース

で通過したが、1500m を過ぎたあたりで集団から離れはじめてしまった。藤本のどかはうまく自分のペースを刻み、前との差を徐々に縮めていった。

ラスト 400m のところで藤本のどかが藤本涼に追いつき、前に出て、そのまま 5 位、6 位のゴールとなった(中野紗)。

↓ 今後の活躍に期待藤本の(1)



男子棒高跳決勝

1 位 三宅 功朔(東大 4) 4m80

2 位 山本 誉志樹(阪大 4) 4m40

3 位 石崎 龍之介(名大 2) 4m30

6 位 黒川 泰暉(京大 2) 4m10

自己新

9 位 平島 敬也(京大 4) 4m00

9 位 増尾 浩旗(京大 3) 4m00

男子棒高跳決勝には黒川(2)、増尾(3)、平島(4)が出場した。黒川は 3m80 から跳び始め、一本目は踏み切りが近くバーを落としてしまったが、三本目でクリア。続いて 4m00 を一発で跳んだ。4m10 の高さでは、一本目は惜しい跳躍を見せ、二本目でクリアした。結果 PB を大きく更新した。増尾は新しいポールで試合に臨み、練習跳

躍の様子は好調であった。周りの応援に明るく振る舞い、リラックスした様子を見せた。4m00 からスタートし、二本目に余裕を見せてクリアした。得点を狙うため4m10 はパスし、4m20 に挑戦したがクリアはできなかった。平島は練習跳躍では肘が曲がり気味であったが、調子は良いように見えた。4m00 からスタートし、一本目はバーを越えたもののポールが当たってバーを落としてしまったが、二本目でクリアした。4m20 の高さではかなり惜しい跳躍を見せたが、三本とも失敗してしまった。結果、京大は黒川 6 位で 1 点を獲得した(岩井)。



↑PB を更新し 1 点をもたらした黒川(2)

女子 100mH 決勝

- 1 位 吉田 有美香(名大 4) 14.96(-1.1)
 2 位 山本 理紗(阪大 4) 15.80(-1.1)
 5 位 花房 柚衣香(京大 3) 16.74(-1.1)

女子 100mH 決勝には花房 (3) が出場した。名古屋大の吉田を先頭に他の選手が飛び出す中、花房は出遅れてしまい前半で差をつけられてしまった。北海道大の原田と 5 位を争い競り合っていたが、先を走っていた東北大の佐貫が 8 台目で転倒したため、花房と原田は 4 位争いをするようになった。競り合いの結果、惜しくも負けてしまい 5 位でゴールした (鈴木綾)。

男子 110mH 予選

- 小野 貴裕(京大 4) 15.05(-0.6) Q
 永田 智季(京大 2) 15.40(-1.5) Q
 吉川 広祐(京大 4) 15.55(-0.4) Q

男子 110mH 予選には小野(4)、永田(2)、吉川(4)が出場した。1 組で出走した小野は鋭いスタートを切り、3 台目から 4 台目の間で後続を完全に突き放すと、その後も安定したハードリングで自己ベストに近いタイムを記録、前年度優勝者の貫録を見せつけ予選を出場者中最速で通過した。続く 2 組には永田が出走、やや強い向かい風の中ではあったがこちらもいいスタートを見せ、序盤からトップに立った。終盤 7、8 台目を倒し隣のレーンを走る馬上(東京)に差を詰められるも集中を切らさずに、1 着を守り切ってフィニッシュした。最終 3 組の吉川は怪我の影響が懸念される中でのレースであり、1、2 台目を引っ掛けるなどバランスを崩して出遅れるが、中盤から終盤にかけてランキング 3 位の底力を発揮して怒涛の勢いで追い上げるとランキング 1 位の仙石(大阪)に次ぐ 2 着でゴールを決めた。全体として波乱等のない落ち着いた展開の中で、京大の 3 選手も事前の想定に近いレース運びで順当に決勝に勝ち上がった(中村)。



↑ 3 人揃って決勝へ小野(4)吉川(4)永田(2)

男子円盤投決勝

1 位 大橋 悟(京大 4) 45m62

2 位 眞鍋 聡志(京大 1) 36m05

自己新

3 位 塚本 健太(北大 2) 35m16

平島 敬也(京大 4) NM

円盤投には平島(4)、大橋(4)、眞鍋(1)が出場した。平島は、1 投目は円盤が投擲ネットにかかるファールとなり、修正を試みたが 2.3 投目もファールと記録を残せず、NM に終わった。優勝候補の大橋は 1 投目から 43m68 を記録し 1 位に立ち、6 投目には 45m62 を記録して圧倒的な強さを見せ優勝した。眞鍋は 2 投目に PB となる 34m69 を記録し、3 投目には 36m05 と記録を伸ばした。4~6 投目はファールとなったが 2 位につけ、1 回生ながら 5 点を獲得し活躍を見せた(今西)。

女子砲丸投決勝

1 位 畠山 千果(東北 1) 11m03

2 位 千葉 沙也加(北大 3) 10m19

3 位 小西 杏佳(北大 3) 9m70

4 位 中野 水貴(京大 3) 9m45

5 位 福井 優輝(京大 4) 9m25

女子砲丸投には福井(4)、中野(3)が出場した。福井は 2 投目に 9m25 を投げたが、東北大の畠山(1)が 2 投目で 10m を超え、さらに北大の千葉(3)、小西(3)が 3 投目までに相次いで 9m 後半の記録を出し、福井

は 4 位、中野も調子が上向かず 5 位に留まる。中野は 6 投目に 9m45 を投げ 4 位に上がったものの、上の 3 人には届かず表彰台を逃した。福井はその後記録を伸ばすことができず 5 位で終了。ランキングを返され、2 人で表彰台という目標を達成することはできなかった。女子の大量得点が見込める種目だっただけに、悔しい結果となった(高木)。

男子 800m 予選

木村 佑(京大 3) 1:54.75 Q

土屋 維智彦(京大 4) 1:56.21 Q

中尾 友哉(京大 2) 1:56.39 q

男子 800m 予選は、1 組に木村(3)、2 組に土屋(4)、3 組に中尾(2)が出場した。1 組目の木村は 1500m 決勝を終えてからのレースであったため、疲労が心配されていた。スタート直後、九州大・早田がハイペースで走り始めたことで、ブレイクした時点で集団が縦長になっており、木村は 4、5 番手に着き、そのまま 400m を通過。2 周目のバックストレートで周りの選手がペースを上げたのに合わせて木村もペースを上げ、600m 通過地点で 2 番手に着き、ラスト 100m で一気にスパートをかけてトップに出て、後続と競り合いながらも 1 着でフィニッシュし、着順での決勝進出を決めた。2 組目の土屋は、優勝候補とも言われていた北大・高橋の棄権により、比較的实力を温存しつつ予選を通過できだろうと予想されていた。レースはスローペースでのスタートとなり、土屋は 1 周かけて集団の 2 番手に着いた。その後も先頭から離れないように落ち着いて走り、ラスト 100m で

一気にスパートをかけ、余裕を持って1着でフィニッシュし、着順での決勝進出を決めた。3組目の中尾は、決勝進出が目標であった。ブレイクしてからしばらくは2位集団の先頭をキープ。1周目のホームストレートで3人の選手による熾烈な2位争いが起こり、ここで惜しくも競り負けて4番手に着いた。500m通過地点から600通過地点にかけて一気にスパートをかけてトップに立ち、そのままラスト100mまでトップを走り続けたが、東京大・小野と北海道大・林のラストスパートに対応し切れず、惜しくも3着でのフィニッシュとなった。着順での決勝進出は逃したがタイム上位2名に含まれたため、記録での決勝進出を果たした。この種目では、京大から出場した3人全員が決勝進出を果たした。京大中距離の底力を見せつける結果となった（山口佐）。

男子 3000mSC 決勝

- 1位 足立 舜(京大2) 9:16.04 自己新
2位 檜山 直生(阪大4) 9:20.26
3位 塚本 亮司(名大4) 9:21.56
8位 吉村 柊太(京大2) 9:46.53
16位 鈴木 洋太郎(京大2) 10:16.24

男子 3000mSC には足立(2)、鈴木(2)、吉村(2)が出場した。序盤は3人ともそれぞれ良い位置で走り、1000m通過は先頭が3'05であった。しかしその後、鈴木は障害でうまくリズムを掴めず、以降苦しい走りとなる。また吉村も得点ラインの6番目で走っていたが、中盤以降足が止まってしまう、悔しい結果となった。先頭集団後

方で走っていた足立は終盤に集団の前に出ると、そのまま1位でフィニッシュ。優勝という最高の結果を残してチームを大いに盛り上げ、七大学にその名を轟かせた(泉)。



↑有言実行足立舜(2)

男子 4×100mR 決勝

- 1位 大阪大学(松本-平松-大西-本多) 40.74
2位 東京大学(香川-井上-平井-聲高) 40.96
3位 京都大学(森本-加藤-田中大-小野) 41.08

男子 4×100mR には1走森本(2)、2走加藤(3)、3走田中大(2)、4走小野(4)のオーダーで臨んだ。森本はスタートをうまく決め、スピードに乗り2走の加藤へ。加藤は流石の走りを見せ3走の田中へ。田中は順位をキープし4走へ。この際バトンが乱れるが、小野が粘りの走りを見せ3着でゴールした(吉田)。

女子 400m 決勝

- 1位 佐貫 有彩(東北4) 56.57

2 位 野尻 真由(阪大 3) 57.87

3 位 延安 美穂(阪大 3) 58.88

4 位 後藤 加奈(京大 4) 59.70 自己新

女子 400m 決勝には後藤(4)が出場した。後藤は序盤から積極的なレースを展開し、59 秒 70 の自己ベストで 4 着に入り 1 点を獲得した。女子主将として 1 年間引っ張ってきた後藤が最後の七大戦で結果を出し、女子チームのみならず京大にさらなる勢いを与えた(乙守)。

男子 400m 決勝

1 位 小谷 哲(京大 4) 47.54

2 位 浅井 良(京大 3) 47.74

3 位 志賀 颯(阪大 3) 48.93

7 位 小原 幹太(京大 4) 49.67

男子 400m 決勝には小原(4)、小谷(4)、浅井(3)が出場した。小谷、浅井は事前の予想通り序盤から他の選手を圧倒して、小谷が 1 位、浅井が 2 位で大量得点をもたらした。小原は、序盤は積極的な走りを見せたが、後半に苦しくなり阪大勢に追いつかれて、惜しくも得点とはならなかった(池田)。

男子やり投決勝

1 位 澤田 剛(京大 3) 61m64 自己新

2 位 廣谷 雄大(阪大 1) 54m44

3 位 東山 竜土(北大 2) 53m48

5 位 松井 そら(京大 4) 52m31

6 位 山野 陽集(京大 2) 51m89

自己新

男子やり投げ決勝には、松井(4)、澤田(3)、山野(2)が出場した。澤田は 1 投目から 61m64 を記録し、圧倒的な強さを見せつけた。今後の蒼穹記録の更新も大いに期待したい。山野は 6 本中 3 本で 51m8 台に乗せ、安定感を見せた。松井は肩のケガが完治しないままの挑戦であった。1、2 本目は記録が伸びずトップ 8 に残ることも厳しいかと思われたが、3 本目で 50m03 を記録し 5 位に浮上。4 投目で 52m31 のシーズンベストを出して 5 位を守った。昨年の悔しさを晴らし、4 回生の七大戦を素晴らしい形で締めくくった(小西)。

男子 400mH 決勝

1 位 加地 拓弥(東北 3) 52.42

2 位 長谷川 隼(京大 3) 54.77

3 位 井戸端 佑樹(東北 3) 54.93

5 位 酒井 良佑(京大 2) 55.66

男子 400mH 決勝には、長谷川(3)、酒井(2)が出場した。資格記録、予選の結果では、長谷川、酒井ともに得点を取れる位置にいた。レースの展開は、長谷川は怪我明けとは思えない安心感のある走りを見せて二着。酒井は、最終コーナー時点では六、七着争いをしている様にも見えたが、五着でゴール。底力を示した(田中宏)。



↑ランキングを大きく覆した酒井(2)

女子 100m 決勝

- 1 位 佐貫 有彩(東北 4) 12.20(-0.7)
- 2 位 内山 咲良(東大 4) 12.56(-0.7)
- 3 位 尾崎 里帆(北大 3) 12.62(-0.7)
- 8 位 後藤 加奈(京大 4) 13.32(-0.7)

女子 100m 決勝には女子主将である後藤(4)が出場した。レーン は 3 レーン。よいスタートは切ったものの、うまく加速できず、他校の選手に離された。最後まで差を埋めきれず、そのまま 8 着でゴール。女子の目標達成が厳しくなってきた中で、大変悔しい結果に終わった(藤本の)。

男子 100m 決勝

- 1 位 加藤 寿昂(京大 3) 10.62(+0.9)
- 2 位 平松 力(阪大 4) 10.63(+0.9)
- 3 位 井上 昂(東大 3) 10.64(+0.9)
- 7 位 田中 大智(京大 2) 10.97(+0.9)

男子 100m 決勝には加藤 (3) と田中大 (2) が出場した。フライングによるスタートのやり直しはあったものの、加藤は得意の後半に圧巻の伸びを見せ、阪大の平松

を抑えランキングをひっくり返し見事 1 位を獲得した。田中は連戦の疲労が残っていたのか、ピッチがなかなか上がって来ず、7 位でのゴールとなり、惜しくも得点を獲得することはできなかった(高橋惇)。

女子 800m 決勝

- 1 位 上條 麻奈(東北 4) 2:17.65
- 2 位 野尻 真由(阪大 3) 2:17.65
- 3 位 小川 明音(東北 2) 2:18.91
- 4 位 西川 真悠(京大 2) 2:19.48

自己新

- 7 位 安藤 百香(京大 3) 2:31.48

女子 800m 決勝には安藤(3)と西川(2)が出場した。スタートから西川は積極的なレースを展開し、400m の通過は 68 秒。安藤も 400m 71 秒と十分に PB まで狙っていけるペースで通過した。西川はラスト 200m で 3 位についていたが、最後に 4 位を走っていた選手に抜かされ、4 位でゴール。目標の表彰台は逃したものの、1 点獲得し、2 分 20 秒切りで PB を更新した。また、安藤は 600m まで良いラップでレースを進めていたが、ラスト 200m でタイムを上げてくることができず SB ではあったものの、目標とする PB とはならなかった(中野紗)。

男子 800m 決勝

- 1 位 木村 佑(京大 3) 1:55.07
- 2 位 土屋 維智彦(京大 4) 1:55.23
- 3 位 小野 康介(東大 4) 1:56.09

5 位 中尾 友哉(京大 2) 1:57.91

男子 800m 決勝には土屋(4)木村(3)中尾(2)が出場した。優勝候補の高橋(北大)の欠場により大量得点が見込まれていた。例年通りスローな展開が予想されたが、100m のブレイクで中尾が先頭に立つと、そのまま 400m を 60 秒で通過し、土屋と木村も間を空けずに続いた。ラスト 200m で木村が仕掛けると土屋も反応し、ラスト 100m 勝負に。最後は木村が制し、連覇を達成した。土屋は 2 位、中尾も粘って 5 位に入り 13 点を獲得した。終始 3 人でレースの主導権を握り、中距離パートの層の厚さを見せつけた(山田)。



↑一挙 13 点をもたらした
土屋(4)木村(3)中尾(2)

男子 110mH 決勝

1 位 仙石 樹(阪大 4) 14.96(-1.2)

2 位 小野 貴裕(京大 4) 14.96(-1.2)

自己新

3 位 釜谷 拓磨(北大 1) 15.16(-1.2)

5 位 永田 智季(京大 2) 15.36(-1.2)

吉川 広祐(京大 4) DQ

男子 110mH 決勝には小野(4)、吉川(4)、永田(2)が出場した。レースは序盤から出場選手中唯一 14 秒台の記録を持っていた仙石(大阪)が小野をややリードし、この二人と釜谷(北海道)が抜け出して後の 5 人が続くという展開だった。釜谷が次第に離される一方で、小野は自分の走りを崩すことなく仙石にしっかりと食らいつき、10 台目とゴールラインまでのダッシュで猛追、ほぼ横に並んだが 1000 分の 1 秒差で惜しくも敗れた。しかしながら向かい風 1.2 メートルという条件の中で、また予選と 4 継の決勝に次ぐこの日 3 本目のレースでありながら自身初の 14 秒台を記録し、パートチーフとしての意地を見せた。吉川は馬上(東京)と競り合う形になり、故障した足を抱えながらも執念でなんとか粘ったが、9 台目を越えたところで大きくバランスを崩し 10 台目を手で倒して失格となった。永田は釜谷を追いかけながら 4 番手につけていたが、8 台目以降精彩を欠き鈴木(東北)にかわされて 5 着でフィニッシュ、得点は獲得したものの悔しさの残る内容となった。結果として事前の得点予想を下回る形にはなってしまったが、七大戦終盤のチームに勢いを与えるレースであった(中村)。

男子 200m 決勝

1 位 平松 力(阪大 4) 21.52(-1.0)

2 位 井上 昂(東大 3) 21.87(-1.0)

3 位 加藤 寿昂(京大 3) 21.88(-1.0)

7 位 田中 大智(京大 2) 22.30(-1.0)

男子 200m 決勝には加藤(3)と田中大(2)が出場した。両名ともに 100m の予選、決勝、4×100m リレーに出場した後のレースだった。加藤は序盤リードを許したが、直線に入ってから徐々に追い上げ 3 位でゴールし、京大短距離のエースとしての意地をみせた。田中は疲れが現れたか、前半から積極的な走りが出来なかった。得点圏内には一歩届かず 7 位であった(荒井)。



↑ 5 本を走り抜いた加藤(3)田中大(2)

男子 5000m 決勝

- | | | |
|-----|--------------|----------|
| 1 位 | 松浦 崇之(東北 4) | 14:57.07 |
| 2 位 | 勝田 哲史(名大 3) | 15:09.18 |
| 3 位 | 阿部 飛雄馬(東大 4) | 15:11.31 |
| 4 位 | 清水 厚佑(京大 2) | 15:12.17 |
| 5 位 | 足立 舜(京大 2) | 15:13.44 |

大学新

- | | | |
|-----|-------------|----------|
| 8 位 | 久田 雅人(京大 3) | 15:28.82 |
|-----|-------------|----------|

男子 5000m には久田(3)、足立舜(2)、清水厚(2)が出場した。序盤は、3 人が先頭集団の中でレースを進めていった。3 人共に 3000m 付近まで先頭集団で引っ張っていたが、3400m 付近で東北大学の松浦がペースを上げ先頭集団の列が伸び始め徐々に離されていった。ここで足立はなんとか

2 位集団に食らいつき、清水もその後ろから迫った。そのままレースは進み、ラスト 200m で清水が猛然とスパートをかけ足立を追い抜き 4 位でゴール。足立は 3000m 障害で優勝し、その疲れもある中で堂々の 5 位でゴール。久田も粘りの走りで双子の兄との対決を制し 8 位で終えた(高橋侃)。



↑ 粘り強さを見せた足立舜(2)清水厚(2)

女子 4×100mR 決勝

- | | | |
|-----|--------------------|-------|
| 1 位 | 大阪大学(針間-延安-山崎-野尻) | 48.72 |
| 2 位 | 東北大学(泉屋-佐貫-小川-神谷) | 49.80 |
| 3 位 | 名古屋大学(小池-小林-中村-吉田) | 50.50 |
| 5 位 | 京都大学(奥村-後藤-花房-西川) | 51.90 |

女子 4×100mR 決勝には、奥村(2)、後藤(4)、花房(3)、西川(2)が出場した。一走の奥村はいいスタートを切ると、ぐんぐん加速していき、二走の後藤にスムーズにバトンを渡した。東北大や大阪大との差が少しずつ大きくなっていく中、これまたスムーズに三走花房にバトンが渡った。いい走

りをするが、直線に入る頃には6位になってしまった。四走の西川にもうまくバトンが渡り、直線で九州大を抜かして5位に上がるが、それ以上順位を上げられず、そのままゴールした。51秒前半の目標を達成できず、かつ得点も取れないという、かなり苦い結果となってしまった。来年の挽回が期待される(湯谷)。

男子4×400mR 決勝

- 1位 京都大学(小谷-藤田雄-水野-浅井)
3:14.92
- 2位 大阪大学(志賀-平松-長-松本)
3:15.43
- 3位 名古屋大学(蔵-新海-丸地-小山)
3:18.95

大会の最後を飾る4×400mR。京大は小谷(4)-藤田(2)-水野(4)-浅井(3)のオーダーで臨んだ。一方、実質唯一のライバルとなる阪大は一走から順に速い人を並べる前半型のオーダーを組み、前半勝負を仕掛けてきた。一走の小谷は400mで優勝した実力を存分に発揮し、阪大に先行した形で藤田にバトンを渡した。藤田は前半積極的に行きトップを守ったが、後半は実力を見せつけられ、阪大に少し遅れて三走に繋いだ。三走の水野は阪大の後ろにびったりと付き、ほぼ差がない状態でアンカー浅井に繋いだ。浅井はラスト100mまで後方で待機すると、最後にスパートをかけて阪大を振り切った。これにより男子は全種目得点となり、総合優勝に花を添える優勝となった(犀川)。

4. 七大戦記録

<対校の部>

▼男子 100m				
1	加藤 寿昂	京大 3	10.62	+0.9
2	平松 力	阪大 4	10.63	+0.9
3	井上 昂	東大 3	10.64	+0.9
4	芦田 周平	東北 3	10.89	+0.9
5	松本雄志郎	阪大 4	10.91	+0.9
6	新海 涼司	名大 4	10.94	+0.9
▼男子 200m				
1	平松 力	阪大 4	21.52	-1.0
2	井上 昂	東大 3	21.87	-1.0
3	加藤 寿昂	京大 3	21.88	-1.0
4	大西 淳矢	阪大 4	21.89	-1.0
5	聲高 健吾	東大 3	22.12	-1.0
6	芦田 周平	東北 3	22.19	-1.0
▼男子 400m				
1	小谷 哲	京大 4	47.54	
2	浅井 良	京大 3	47.74	
3	志賀 颯	阪大 3	48.93	
4	長 奎吾	阪大 3	49.17	
5	蔵 啓太	名大 2	49.45	
6	寺前 凌	阪大 4	49.62	
▼男子 800m				
1	木村 佑	京大 3	1:55.07	
2	土屋維智彦	京大 4	1:55.23	
3	小野 康介	東大 4	1:56.09	
4	中村 光志	名大 3	1:57.75	
5	中尾 友哉	京大 2	1:57.91	
6	森 信人	名大 4	1:58.05	
▼男子 1500m				
1	木村 佑	京大 3	3:57.20	
2	金綱 航平	北大 4	3:58.04	
3	清原 陸	京大 3	3:58.11	

4	酒井 洋明	北大 4	3:58.71	
5	道岡 聖	東大 2	3:58.88	
6	小川 瑞貴	名大 4	3:58.89	
▼男子 5000m				
1	松浦 崇之	東北 4	14:57.07	
2	勝田 哲史	名大 3	15:09.18	
3	阿部飛雄馬	東大 4	15:11.31	
4	清水 厚佑	京大 2	15:12.17	
5	足立 舜	京大 2	15:13.44	
6	佐野 昌幸	北大 3	15:14.16	
▼男子 110mH				
1	仙石 樹	阪大 4	14.96	-1.2
2	小野 貴裕	京大 4	14.96	-1.2
3	釜谷 拓磨	北大 1	15.16	-1.2
4	鈴木 健大	東北 3	15.24	-1.2
5	永田 智季	京大 2	15.36	-1.2
6	馬上 凌	東大 2	15.37	-1.2
▼男子 400mH				
1	加地 拓弥	東北 3	52.42	
2	長谷川 隼	京大 3	54.77	
3	井戸端佑樹	東北 3	54.93	
4	田中 壘	九大 1	55.04	
5	酒井 良佑	京大 2	55.66	
6	松田 光陽	東大 4	56.21	
▼男子 3000mSC				
1	足立 舜	京大 2	9:16.04	
2	檜山 直生	阪大 4	9:20.26	
3	塚本 亮司	名大 4	9:21.56	
4	阿部飛雄馬	東大 4	9:31.61	
5	森川 陽之	名大 2	9:34.93	
6	川瀬 育夢	北大 3	9:39.10	
▼男子 5000mW				
1	後藤 潤平	東大 4	21:34.76	
2	亀田孝太郎	京大 4	21:35.28	
3	鈴木 智大	名大 2	21:48.86	

4	渡邊 遊	阪大 2	21:49.44	
5	泉 健太	東北 2	21:55.40	
6	梅本 崇弘	名大 1	22:37.71	
▼男子 4×100mR				
1	大阪大学		40.74	
2	東京大学		40.96	
3	京都大学		41.08	
4	名古屋大学		41.36	
5	九州大学		41.95	
6	東北大学		42.08	
▼男子 4×400mR				
1	京都大学		3:14.92	
2	大阪大学		3:15.43	
3	名古屋大学		3:18.95	
4	東北大学		3:19.25	
5	九州大学		3:21.76	
6	東京大学		3:23.26	
▼男子走高跳				
1	木村 友哉	阪大 3	2m07	
2	羽田 充宏	阪大 3	2m04	
3	北嶋諒太郎	九大 4	2m04	
4	小山 航	名大 4	2m01	
5	山田 惟人	北大 2	2m01	
6	阪口 裕飛	京大 2	1m98	
▼男子棒高跳				
1	三宅 功朔	東大 4	4m80	
2	山本誉志樹	阪大 4	4m40	
3	石崎龍之介	名大 2	4m30	
4	佐々木 玲	東北 2	4m20	
5	赤星 栄治	東北 3	4m20	
6	黒川 泰暉	京大 2	4m10	
▼男子走幅跳				
1	木下 将一	阪大 3	7m26	-0.1
2	三宅 功朔	東大 4	7m25	+1.3
3	井内 光	阪大 3	7m23	-1.3

4	渡辺 啓暉	北大 2	7m17	+0.5
5	本居 和弘	京大 4	7m02	+0.3
6	藤原 暉	東大 4	6m79	0.0
▼男子三段跳				
1	三神 惇志	京大 4	15m08	+1.6
2	高橋 毅	九大 3	14m57	+1.2
3	渡辺 啓暉	北大 2	14m30	+1.6
4	星野 祐輝	東大 2	14m22	+2.7
5	岩井 響平	京大 2	14m16	+1.4
6	尾原 正人	阪大 3	14m14	+1.6
▼男子砲丸投				
1	中村 優太	東大 3	13m61	
2	眞鍋 聡志	京大 1	12m48	
3	大野 誠尚	東北 2	12m43	
4	塚本 健太	北大 2	12m23	
5	森田 泰史	阪大 3	12m13	
6	諏訪 雄山	九大 4	11m87	
▼男子円盤投				
1	大橋 悟	京大 4	45m62	
2	眞鍋 聡志	京大 1	36m05	
3	塚本 健太	北大 2	35m16	
4	諏訪 雄山	九大 4	34m91	
5	大野 誠尚	東北 2	32m16	
6	松本 大輝	九大 2	31m70	
▼男子ハンマー投				
1	三谷 圭	京大 4	47m88	
2	大橋 悟	京大 4	45m84	
3	立花 悠馬	名大 2	43m45	
4	藤田 歩	京大 3	42m70	
5	爲本 龍太	北大 2	38m87	
6	池田 駿雄	北大 4	36m29	
▼男子やり投				
1	澤田 剛	京大 3	61m64	
2	廣谷 雄大	阪大 1	54m44	
3	東山 竜土	北大 2	53m48	

4	新出 悠介	東北 4	53m13	
5	松井 そら	京大 4	52m31	
6	山野 陽集	京大 2	51m89	
▼女子 100m				
1	佐貫 有彩	東北 4	12.20	-0.7
2	内山 咲良	東大 4	12.56	-0.7
3	尾崎 里帆	北大 3	12.62	-0.7
4	山崎 真奈	阪大 4	12.73	-0.7
▼女子 400m				
1	佐貫 有彩	東北 4	56.57	
2	野尻 真由	阪大 3	57.87	
3	延安 美穂	阪大 3	58.88	
4	後藤 加奈	京大 4	59.70	
▼女子 800m				
1	上條 麻奈	東北 4	2:17.65	
2	野尻 真由	阪大 3	2:17.65	
3	小川 明音	東北 2	2:18.91	
4	西川 真悠	京大 2	2:19.48	
▼女子 3000m				
1	三池 瑠衣	阪大 4	10:13.15	
2	上條 麻奈	東北 4	10:37.20	
3	斉藤 栞	名大 3	10:37.55	
4	小島 美月	阪大 2	10:39.90	
▼女子 100mH				
1	吉田有美香	名大 4	14.96	-1.1
2	山本 理紗	阪大 4	15.80	-1.1
▼女子 4×100mR				
1	大阪大学		48.72	
2	東北大学		49.80	
3	名古屋大学		50.50	
4	北海道大学		51.71	
▼女子走高跳				
1	中村 友香	名大 1	1m59	
2	山崎 真奈	阪大 4	1m56	
3	福田 早紀	阪大 3	1m56	

4	内山 咲良	東大 4	1m53	
▼女子走幅跳				
1	尾崎 里帆	北大 3	5m92	+0.3
2	内山 咲良	東大 4	5m63	-0.3
3	小林はづき	名大 1	5m62	+1.0
4	岩本 法子	九大 3	5m55	-0.9
▼女子砲丸投				
1	畠山 千果	東北 1	11m03	
2	千葉沙也加	北大 3	10m19	
3	小西 杏佳	北大 3	9m70	
4	中野 水貴	京大 3	9m45	
▼女子やり投				
1	中野 水貴	京大 3	42m99	
2	澁谷 美紀	名大 2	36m89	

<オープンの部>

▼男子 100m				
梶原 隆真		11.01	+0.6	自己新
安藤 滉一		11.02	+1.9	
西脇 友哉		11.18	+1.5	自己新
武波 夏輝		11.20	+2.0	自己新
南井 航太		11.21	+1.5	自己新
数多 伸紀		11.39	+2.3	
松原 耕平		11.47	-0.2	自己新
中村 鮎夢		11.47	+1.3	自己新
鄭 晟皓		11.52	+2.0	
岩松 尚杜		11.70	+1.5	自己新
芦田 開		11.77	+1.5	
吉井 希祐		11.78	+1.5	大学新
今西 直		12.08	+1.5	大学初
高橋 惇寿		12.11	-0.1	大学初
坂本 璃月		12.24	0.0	大学初
▼男子 400m				
岩松 尚杜		49.71		
水野 廉也		50.50		
田中 智也		50.67		

前田 朝陽		51.28	自己新
武波 夏輝		51.30	大学新
松本 佳太		51.60	
川 俊太		52.62	自己新
田中 宏樹		52.64	大学初
犀川 啓太		52.64	
山口 佐助		54.55	大学初
岡本 郁翔		54.91	自己新
飯田 駿介		1:01.87	
▼男子 1500m			
川井 景太		4:10.53	大学新
岡野 颯斗		4:11.68	
川井 拓哉		4:12.26	
渡邊 康介		4:13.28	
清水 秀広		4:16.38	
大前 晃一		4:16.72	
谷川 尚希		4:17.75	
宇佐美岳良		4:18.96	
木野村隆宏		4:20.30	自己新
柴田 裕平		4:20.66	
足立 大宜		4:22.98	
山田 大智		4:28.54	大学初
岡本 郁翔		4:37.07	大学新
飯田 駿介		4:43.82	
松岡 健		4:47.35	自身初
▼男子 5000m			
柴田 裕平		15:54.59	
谷川 尚希		16:00.95	
岡野 颯斗		16:51.75	
▼男子 5000mW			
平岡 拓		27:13.58	
▼男子 4×400mR			
京都大学 (乙守-川-岡 本-飯田)		3:40.11	

▼男子棒高跳				
鄭 晟皓		2m80		
五十嵐隆皓		NM		
▼男子走幅跳				
南井 航太		6m81	+3.3	
	公認	6m73	+1.1	自己新
扇澤 剛志		6m36	+0.2	自己新
▼男子やり投				
浅野 智司		58m09		
今西 直		39m71		
鄭 晟皓		30m62		
▼女子 100m				
奥村 夏子		13.69	+0.4	
▼女子 1500m				
中野 紗希		5:16.66		
鶴崎 涼花		5:37.81		
▼女子走幅跳				
坂本 莉奈		5m09	+1.0	

5. 七大戦 OB 様名簿

遠方での開催にもかかわらず、以下の OB・OG の方々が応援にお越しく下さいました。

市川 哲 様 (S38)
 鯉谷 忠夫 様 (S41)
 藤原 忠義 様 (S41)
 森本 正幸 様 (S41)
 吉田 基 様 (S42)
 吉田 美代子 様 (S42)
 勝村 弘也 様 (S44)
 染川 武博 様 (S45)
 池本 忠司 様 (S49)
 池田 康博 様 (S51)
 桂 総一郎 様 (S51)
 小山 一之 様 (S53)

重村 充男 様 (S54)
 三好 稔彦 様 (S54)
 清水 智志 様 (S57)
 熊谷 元 様 (S59)
 長谷川 聡 様 (H25)
 堀田 孝之 様 (H25)
 眞武 俊輔 様 (H25)
 平井 幹 様 (H26)
 庄司 真 様 (H27)
 宮崎 伶菜 様 (H27)
 岡本 和晃 様 (H28)
 下迫田 啓太 様 (H28)
 寶 雄也 様 (H28)
 松葉 悠剛 様 (H28)
 稲垣 達也 様 (H29)
 紀平 直人 様 (H29)
 佐藤 啓太 様 (H29)
 松下 隼人 様 (H29)
 若園 直樹 様 (H29)
 山下 弘輝 様 (H30)
 秋本 啓太 様 (H31)
 伊東 悠希 様 (H31)
 岡本 和也 様 (H31)
 澤 なつ香 様 (H31)
 田中 達也 様 (H31)
 谷口 博紀 様 (H31)
 中山 奎吾 様 (H31)
 平田 泰行 様 (H31)
 山川 典恵 様 (H31)

6. 近国結果

第 57 回近畿地区国公立大学体育大会(陸上競技)

令和元年 8 月 8 日(木)
 奈良市鴻ノ池陸上競技場

▼男子 100m				
澤 薫	予選	10.73	+1.6	
	決勝	10.85	+0.2	4 位
珍坂 涼太	予選	11.35	+1.5	
▼男子 200m				
安藤 滉一	予選	22.53	+0.1	
数多 伸紀	予選	22.91	+1.6	自己新
▼男子 400m				
岩松 尚杜	予選	50.11		
	決勝	50.48		6 位
小谷 哲	予選	48.43		
	決勝	48.39		優勝
前田 朝陽	予選	52.14		
▼男子 800m				
中尾 友哉	予選	2:00.86		
	決勝	1:59.97		2 位
川井 景太	予選	1:59.64		
	決勝	2:00.54		4 位
乙守倫太郎	予選	2:03.90		
▼男子 1500m				
前田 裕也	決勝	4:05.23		5 位
宇佐美岳良	決勝	4:06.14		6 位
鶴見 薫樹	決勝	4:30.99		
▼男子 5000m				
川井 拓哉	決勝	16:01.48		
泉 竣哉	決勝	16:08.71		
▼男子 110mH				
長谷川 隼	T 決	15.89	-1.8	
永田 智季	T 決	15.46	-1.8	7 位
酒井 良佑	T 決	15.93	-1.0	
▼男子 400mH				
五十嵐隆皓	予選	54.75		自己新
	決勝	56.36		5 位
酒井 良佑	予選	56.01		
	決勝	56.36		6 位

▼男子 3000mSC				
渡邊 康介	決勝	10:13.60		7 位
津吉 順平	決勝	11:05.23		
▼男子 100+200+300+400mR				
京都大学 (珍坂-澤-安 藤滉-岩松)	決勝	1:57.63		5 位
▼男子走高跳				
阪口 裕飛	決勝	2m04		2 位
▼男子棒高跳				
増尾 浩旗	決勝	4m00		4 位
鄭 晟皓	決勝	3m20		8 位 自己新
▼男子走幅跳				
村田 憧哉	決勝	6m83	+2.1	
	公認	6m70	+0.4	5 位
坂本 璃月	決勝	5m95	+1.5	CB 外
▼男子三段跳				
扇澤 剛志	決勝	13m42	+0.5	
柳原 拓海	決勝	13m17	-1.2	
松原 耕平	決勝	NM		
▼男子砲丸投				
三谷 圭	決勝	10m00		8 位 自己新
眞鍋 聡志	決勝	11m66		3 位
▼男子円盤投				
大橋 悟	決勝	44m74		2 位
鄭 晟皓	決勝	27m00		自己新
▼男子ハンマー投				
三谷 圭	決勝	46m50		2 位
大橋 悟	決勝	36m38		8 位
藤田 歩	決勝	40m81		5 位
▼男子やり投				
浅野 智司	決勝	55m53		4 位
澤田 剛	決勝	59m37		2 位

山野 陽集	決勝	50m62	7 位
▼女子 200m			
奥村 夏子	T 決	28.37	+4.0
▼女子 400m			
後藤 加奈	T 決	1:00.47	5 位
▼女子 800m			
西川 真悠	T 決	2:21.16	6 位
藤本のどか	T 決	2:36.60	大学初
▼女子 1500m			
安藤 百香	決勝	5:18.02	大学新
鶴崎 涼花	決勝	5:32.48	
藤本 涼	決勝	5:08.95	自己新
▼女子 3000m			
高木穂乃香	決勝	12:37.27	
▼女子 100mH			
花房柚衣香	決勝	17.19	-1.0 7 位

小西 菜月	決勝	16.97	-1.0	6 位 大学新
▼女子 4×100mR				
京都大学 (奥村-後藤- 花房-西川)	決勝	52.66		6 位
▼女子砲丸投				
福井 優輝	決勝	8m87		3 位
中野 水貴	決勝	9m11		2 位
▼女子円盤投				
横山 優花	決勝	33m31		優勝
福井 優輝	決勝	21m07		5 位
▼女子やり投				
中野 水貴	決勝	44m50		優勝
小西 菜月	決勝	28m04		4 位

7. 新幹部のおしらせ

役職	氏名	フリガナ	パート	連絡先
主将	木村 佑	キムラ タスク	中距離	tsk.fun-to-run0907@docomo.ne.jp
女子主将	中野 水貴	ナカノ ミズキ	投擲	mizuki.peace12@gmail.com
副将 ハードル PC	長谷川 隼	ハセガワ シュン	ハードル	haseshun-0817@outlook.jp
副将 駅伝主務	津吉 順平	ツヨシ ジュンペイ	長距離	tsuyoshi2261@gmail.com
短短 PC	加藤 寿昂	カトウ トシアキ	短短	kato3207@yahoo.co.jp
短長 PC	浅井 良	アサイ リョウ	短長	gachagacha103002@yahoo.co.jp
中距離 PC	清原 陸	キヨハラ リク	中距離	k.riku090602@gmail.com
長距離 PC	久田 雅人	ヒサダ マサト	長距離	m3105173@yahoo.co.jp
フィールド PC	澤田 剛	サワダ ツヨシ	投擲	tsuyoshi400mh@gmail.com
渉外主務	岡本 郁翔	オカモト イクト	中距離	ikumon1203@gmail.com
学連主務	平野 亘	ヒラノ ワタル	ハードル	wtruu524@i.softbank.jp wtruu0524@outlook.jp
体育会主務	藤田 歩	フジタ アユム	投擲	fujiayu1025@gmail.com



蒼穹ニュース 令和元年度 第5号
令和元(2019)年8月10日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：犀川啓太・鈴木洋太郎・柳原拓海（副務）
特別協力：三田村侑紀・山口佳那子（学連員）
武波夏輝・藤田雄大（記録係）・浅井良（HP 係）
写真担当：鶴見薫樹・永田智季・平岡拓・吉井希祐

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス liuyuantahai9@gmail.com （柳原）